

パブリックコメントでの意見全文

【Aさん】※資料1「パブリックコメントの結果」意見NO.1

とてもわかりやすく簡潔にまとまっており、親しみやすい内容だと思います。提案について、よく耳を傾けてくださった印象があり、とても感謝しています。関係した方々とともに、やり甲斐を分かち合っって充足感を持っています。

あとは、宮代町行政の中での周知を徹底していただきたいです。職員の皆さんは、能動的に活躍できる有能な方ばかりだと思いますが、担当する職員の個人の温度差によって、窓口の時点でとん挫してしまうことも起こりがちです。

他の行政区と比べても、少ない人数で真摯な仕事をされている中で、過酷な注文かもしれませんが、総合計画の意図に至るまで、行政内でのコンセンサスが取れるくらいの意識の共有が生まれることを望みます。

絵にかいた餅にならず、徒勞で消えていく活動を最小限にし、町民の活躍をフルに活かすためにも、勉強会やオンラインでの意識共有などの工夫で、町民や民間の力が財産、という風土が、宮代町行政内に生まれることを望みます。

民間は民間で、行政に甘えずに新しい価値を創造する責任を感じています。安易に頼るのではなく、自分たちで生み出し育てていく風土を創り出していくつもりです。

【Bさん】※資料1「パブリックコメントの結果」意見NO.2

初めまして。私は25歳まで宮代町で過ごした女性です。第5次宮代町総合計画基本構想に興味深く拝見いたしました。というのも、35年間勤めた仕事をこの3月末に定年し、緑豊かな故郷「宮代町」に再び戻りたいと数年前から考えていたからです。

そこで、

- ①シルバーパワーを宮代町の活性化に生かせないのか。(組織構築・リーダー育成)
- ②宮代町に住みたい人が家を建てやすい環境を整える。(補助制度)
- ③一人ひとりの特技を生かせる職場の確保。(学びの場づくり)
- ④町内循環バス・個人タクシーの充実。(利用費負担の軽減)
- ⑤地産地消の食物循環。(農作物の流通活性化)
- ⑥駅の増設。(駅あるところに人は集まる)

※数年したら是非、宮代町の住民になりたいと思っております。また、定期的に訪問いたします。皆さん頑張ってください。心から宮代町を応援しています。

【Cさん】※資料1「パブリックコメントの結果」意見NO.3

- 9ページ「構想3 さまざまな活動や主体を生み出す」に関して、

記述中段に、「その時々社会情勢や、地域課題に対応した町民による活動が自発的、自然発生的に生まれる、そういう町になる必要があります。…こうした共通の場、オープンな仕組みを、10年後を見据えて町が用意する」必要性が示されています。そのためにも、「官

と「民」が多様性を受入れ、寛容な心を持って、さまざまな活動を展開していけたら素晴らしいと感じました。

●10 ページ「方針G」や「方針H」、「方針K」に関して、

宮代町で役割を持って活躍したい、宮代町を元気にしたいといったような興味・関心から始まる様々なまちづくり活動と、福祉や教育分野における専門的な個別支援や困りごとの相談支援といった地域の課題解決を目指したような活動が共に結びついていく学びのプラットフォームが大切だと感じます。

そこでお互いに融合し合って生まれた新たな活動や取り組みこそが宮代町の新たな個性となって、暮らしの安心感や町の発展にもさらにつながっていくと思います。

●12 ページ「方針L」や「方針M」に関して、

近年、行政事務が増える中、アウトソーシングで行政をスリム化する視点も大切ですが、地域のゆるやかな居場所づくり、多様なサービス展開に向けては、「官」は「民」に任せるばかりでなく、どちらも主役という視点を大切にして今後も共に歩んでいけたら良いと感じます。そのためには、新井町長が進める対話を中心に、行政も市民もお互いに意見を言える関係性を大切にしながらまちづくりを推進していったほしいと思います。

【Dさん】※資料1「パブリックコメントの結果」意見NO.4~7

《はじめに》

生まれたときから宮代に住んでいます。小学5年生まで笠原地区に住み、笠原小に通いました。実家の引っ越しに伴い、須賀小に転校。結婚して本田地区で暮らし、息子は国納保育園にお世話になりました。現在は東に住んでいます。第5次宮代町総合計画基本構想案を読み、また普段の生活の中で感じていた町への思いや意見を申し上げたく思います。

《宮代町に住んでいてよかったと思っているところ》

①病後児保育がある

息子は小さい頃、喘息発作を何度も起こしました。わたしは杉戸町の公立保育園で非常勤保育士として働いていて、息子の体調不良や入院のたびに職場に迷惑をかけて肩身の狭い思いをしていました。病後児保育を思いきって使ってみると、息子は少人数の中でゆったりと過ごすことができ、わたしは心配が減って仕事に行くことができ助かりました。

②図書館が充実している

図書館の本やサービスが充実していて館内が綺麗なため、他市町村の友人から羨ましがられました。

③六花で医療が受けられた

子どもが小さいころは徒歩もしくは自転車の行動のみだったので、六花が近くにあるのが医療が受けられるのが助かりました。

《パブリックコメント》

わたしのSNS投稿（宮代町の風景）を見て「宮代って素敵な町だね」と言ってくれる人

がたくさんいます。中には本気で移住を考えてくれている友人もいます（企画財政課に問い合わせ済み）。「宮代町のことを詳しく教えて」と言われたとき、自信をもってすすめられなかった部分が2つありました。

①六花…受付が15:30で終了は早すぎて、仕事をしている人は通えません（わたしもでした）。子育て世代で保育園に子どもを預けている人は16:30のお迎えに合わせて働く時間を設定している人が多くいます（職場から保育園に寄って家に帰るため）。仕事が終わって子どもを迎えに行き、急いで受診することを考えて17:00までは開けてほしいです。

②教育…宮代町でわたしも息子も育ち、熱心で優しい先生とたくさん出会いました。町探検や職業体験など、地元の方との繋がりを育みながら子どもたちの発見や成長を促す素敵な取り組みだと思います。

ただ、町探検も職業体験も取り組んでいる地域や学校も多く「宮代町にしかない」特色として伝えられるものとしてはインパクトが少なく、「一般的な教育」と伝えなければいけないことが悔しく感じました。

《宮代町らしい教育の提案》

「今」に合わせた教育で宮代らしさを考えたとき、目指したいのは第5次宮代町総合計画基本構想案に書かれていた「人が輝く町（＝教育）」と感じました。学校や先生たちが子どもたちのために頑張ってくれているということ、息子を通して感じました。でも、一人一人の個性を伸ばす、多様性を認める教育は宮代町というより社会全体として、課題が多い気がしています。そこに立ちあはばかるものは何だろうと考えた時、先生たちの仕事が多すぎるのではないかという心配と、わたしたち親が多様性を求めながら、認め切れていない部分が大きく影響しているのではないかと思いました。

《多様性を実現するための居場所作り》

子どもたちのためと同時に先生方の負担軽減のために、学校外に子どもの居場所を作ること提案します。学校に行くことが難しい子どもと、その予備に入る子を加えるとかなりの数になるのではないかと考えられます。アメリカの心理学者エレン・N・アーロン博士によって提唱された概念であるHSC（Highly Sensitive Child）生まれつき繊細さや感性の鋭さ、慎重さを持つ「とても敏感で感受性が高い子」は、現代社会では5人に1人に該当するとも言われています。幼児教育に20年以上携わってきて感じるのは、今の子どもたちの多様性の幅広さです。その子のもっているもの（特性）を伸ばせるような居場所や学びの場が増え、たくさんの選択肢の中から選べたらいいなと。それはコンパクトな町だからこそできる「宮代らしい教育」につながると考えます。

《大人も本当の意味で自分らしく輝けるために》

現実には居場所が増えても、最初のうちは活用する人は多くないのではと予想します。もちろん活用する人が多いから必要か必要ではないかということではない、が前提です。

居場所が増えても活用する人が少ない理由は、「学校に行けないうちの子はダメな子」「恥

ずかしい」と感じる保護者が多いだろうと予想できるからです。不登校は親である自分の責任。先生がちゃんとうちの子を見てくれないから。特に特性で学校が苦手な場合には、目立つ原因が見つからないことが多く「みんなと一緒に教育を受けさせてほしい」と望む保護者も少なくないのではないのでしょうか。子どもの多様性を受け入れるために必要なのは、大人が自分の多様性を理解することだと思います。

わたしは昨年ファシリテーター養成講座に通い、自分と向き合う一年を過ごしました。その中で気づいたことがあります。「子どものためだと頑張ってきたことは、自分の名誉や評価のためでもあったかもしれない」ということです。自分と向き合ううちに、自分がどう生きたいのかが見え始めました。子どもが個性を輝かせて生きる、そのベースに必要なものは「親自身が自分を生きている」ということだと思います。

いい子に育つために、頑張って子育てしなくては。なるべくいい成績を取って、いい学校に進学してほしい。苦しい呪縛から解放し、自分らしい子育てをしてほしいです。頑張りすぎている鎧を安心して外せる場所が必要だと考えます。

今までの経験や学んだことを生かして、イライラや不安を吐き出せる場所を作りたいと考えて活動を始めています。自分の軸を持てるように、講師を呼んでの勉強会も開催したいです。第5次宮代町総合計画基本構想案に書かれていた「人が輝く町」になるために、一人一人が「自分を生きるということ」がベースになるように感じています。「活動が生まれる学び舎（学びのプラットフォーム）」の一つとして、サポートを希望いたします。

あわせて、公共施設の料金と予約方法についても、さいたま市公共施設予約システムのような登録制にして、町民がやりたいと思ったことを「場所を探す・予約する・料金の壁」を感じずに動けるようなしくみを作って下さることを熱望いたします。

《最後に》

宮代町に住んで40年以上経ちますが、町の計画案に目を通してパブリックコメントを提出するということが初めて挑戦しました。今回の案についてFacebook等で「宮代町ってやっぱり面白い」「すごい案だ」という反響があり、読んでみたくなりました。読んでみたら分かりやすく、感動しました。

素敵な計画案をありがとうございました。

【Eさん】※資料1「パブリックコメントの結果」意見NO.8

《はじめに 私はどのような立場か》

～ 個人が特定される記述が含まれているので一部省略 ～

娘が不登校になった事がきっかけで、この町には不登校の児童生徒が行ける場所があっても様々な理由から利用ができていない事がわかりました。娘もその1人でした。

不登校の児童生徒は年々増加傾向にあります。素晴らしい町の宝であるはずの、たくさんの子供達が悲しく辛く悩んでいて、その保護者の方々も例外ではありません。不登校の児童生徒の多くがその後、引きこもりになってしまうケースが多いというエビデンスがありま

す。この問題にもう少し積極的に取り組んでいく事で町としても人材の損失を減らして、重い荷物を背負わなくて済み、しかもプラスに変換でき、町の発展につながっていくと私は感じます。

不登校になる子の多くは、類いまれなる能力を持っている事が多く、これを逆に利用しないのはもったいない事だと思います。発想の転換をして、これらの子供達を大切に育て、一般的な教育とは別のカリキュラムで彼らの能力を引き出し町の担い手、自主性のあるリーダーとして活用していく方法を、私は町と一緒に考えたいです。

～ 個人が特定される記述が含まれているので一部省略 ～

【Fさん】※資料1「パブリックコメントの結果」意見NO.9

宮代町に立地する東武動物公園に、日本工業大学の協力で大人から子供まで楽しめる人工サーフィンレジャー施設の建設を提案します。現在、オリンピックの種目となったサーフィンですが、世界的に人工サーフィン施設の建設が注目されています。最近では静岡県で建設が終了しました。海なし県の埼玉県から海へのレジャーは時間と交通費がかかることと、自然の海は天候に左右されるが、当該施設なら365日安定した波を楽しめます。宮代町の東武動物公園ではプールレジャーがあることから、そこへ併設し飲食店の併用と簡易宿泊施設とキャンプ場などを建設することで、東武動物公園で遊び宿泊ができる。

また、全年齢層で生活の一部となっているスポーツが同時に楽しめるようにすることで大人から子供までが、動物園、遊園地、プール、スポーツ（サーフィン、乗馬など）で利用できる。また、サーフィンに重要な人工造波装置は日本工業大学の協力を依頼することで学生の研究にも貢献できると考える。立地として駅から近く、圏央道により県内はもちろん、県外からの利用者の増加に期待できると考えます。

【Gさん】※資料1「パブリックコメントの結果」意見NO.10

《構想2 コンパクトな町の強みを活かす》を読ませていただき自治会について考えました。「敬老会」や「〇〇サロン」の開催というのは自治会が主体になっていると思います。しかし今この自治会を脱会する人が増えています。高齢者で遠慮タイプの方は「もう班長はできないから申しわけないので町内会を抜けます」とやめていきます。定年前後の方は「区長や会計など役員は絶対にできないから、やるぐらいならやめます」とやめていきます。子育て世代はそもそも町内会のイベントにも出てこない（子どもの習い事などでいそがしい）し、町内会の必要性を感じていません。アパートの人は最初から入りません。

以前、私の町内会で区長選出の件で揉め事が起き、ある班が全員でやめるということがありました。その時に引き留めるきっかけがつかめればと役場に「町内会をやめた場合、日常生活やその他で何か不都合なことやデメリットはないのですか？」と聞きに行ったところ、「ゴミも申請すれば出せるし、災害が起きたときも情報はいくから大丈夫です」という答えでした。これでは引き留めることは到底無理だし、むしろ脱会を促進させてしまいます。この返答を聞いたときに私はあきらめました。

しかし自治会に所属しない人が増えるとそもそも困るのはまず役場だと思うのです。町

民全員が自治会に所属していただければ、例えば災害が起きたときには区長を通じて情報や物資を届けることができます。また要望も区長に取りまとめてもらうことができますし、ボランティア等をお願いすることもできます。これが町の求める自治防災組織ですよ。でも所属していない人が増えれば増えるほどみんなが個人的に問い合わせや要望を言ってきて大混乱に陥ってしまいます。もちろん苦情も増えるでしょう。そんな人の対応をするだけで役場は疲弊してしまいます。

ということで、なんとか町民全員が自治会に所属するしくみを考えていただきたいです。自治会活動に参加する、しないは個人の自由です。でも所属していれば何かのタイミングで自治会を知ろう、参加しようとなるかもしれません。これが最初から所属しなくてもいいよとなっていたら、ただただ「めんどくさそう」だから最初から所属しないとなってしまう。

「行政に対する関心や興味を失ってしまい、あきらめに近い気持ちを持つようになってはいけません。行政の目が届かなくなってしまう人々が出現しないようにしなければなりません」とありますが、町内会に所属してもらうことがまずこの一歩だと思えます。

【Hさん】※資料1「パブリックコメントの結果」意見NO.11

第1章の頁に表記のある町の未来像や構想など、また第3章において表記のある方針A～Mにおいてと第2章の土地利用方針についての紐付いた説明がなく、第1章、第3章との繋がり無く第2章の土地利用方針だけが唐突とこれまでの物語性と独立して置かれている様に見受けられます。

できれば、より具体的に計画の説明をしている第3章の構想と方針A～Mと関連づける形で、土地利用方針に説明を加えて頂き、なぜこの土地利用なのか？、この土地利用からどういった目標が達成できるのか（目論見があるのか）？など踏み込んで説明をして欲しい。

町としてスケジュールの見直しが決まった都市計画マスタープランのについて、第5次総合計画に即した各種方針の見直しを進められていると聞きましたが、現行の第2章の土地利用方針の場合、今回策定された素晴らしい総合計画基本構想（案）のまちづくりの目標（第1章、第3章）との関連性が理解しづらい（薄い）土地利用方針となり、またその第2章に即した都市計画マスタープランが策定されてしまうのは、町民としては何か片手落ちの様な腑の落ちなさ、残念さを覚えます。

エリアと区分分けされた表上の土地利用方針の説明についても、出てくる語彙などのレベルで第3章で説明されている方針の説明に使われている言葉とアンマッチな様である。できれば区分エリア分けされた土地利用方針の表上に第3章の方針A～Mのどのものを達成しようとしているかのA～Mの表記があると分かりやすい。（単純に振り分けができないかもしれないですが。）

【Iさん】※資料1「パブリックコメントの結果」意見NO.12

日本社会が拡大路線をとっていた時に、コンパクトシティを目指した宮代町らしい方針だと思いました。人口増加も現状維持を目指し、無理に増強するのではなく、減らさないた

めにこの町を好きな人を増やし、住み続けられる環境を整えようという考えにとっても共感できます。

町民による活動が自発的、自然発生的に生まれることは素晴らしいことだと思います、行政にやってもらう、やらせるという考え方から、自分に何ができるかを考えることは、新しい社会に生まれ変わる第1歩だと思います。新しい社会では事業を持続できるものにするためにも、状況に合わせて変化することができず、利益を出しにくい現在の補助金事業の仕組みや意識、柔軟に対応できない予算の仕組みなどを変えてくださることも必要に思います。また、コロナで大打撃を受けたこの経済状況で、私たちには減収や増税の不安もあり、町が財源をどこで確保するのかが読み取れず少し心配になりました。

でも、とてもわかりやすく理解しやすい言葉で書かれた方針書は、町民と共に進んでいこうという表れのように思い、従来の発想や固定概念にとらわれていないと感じました。それぞれの強みを生かした官民連携と前例踏襲や慣例にとらわれない新しい行政に期待しています。多様性を認め合う優しい「チームみやしろ」で宮代町の魅力を高められる一人になりたいと思いました。